



こう ちょう しつ
校 長 室 だ よ り
第 8 号

令和 7 年 10 月 31 日
大阪市立新東三国小学校
校 長 岩井 伸夫

◇◇ 運動会への応援、ご協力をありがとうございました！ ◇◇

10月18日（土）の運動会では、途中小雨も降りましたが、最後まで保護者の皆様からの応援、ご協力をいただきまして、誠にありがとうございました。「心を一つにつき進め！」という運動会のめあてのもと、おかげ様で大きな声がなどもなく、競技や演技も大変盛り上がって、子ども達は自信と達成感を得ることができたようでした。アンケートでは、演技や競技にがんばる子ども達への称賛をいただきました。

運動会では、保護者の皆様には観覧エリアでの立ち見による参観をお願いしておりました。当日、競技や演技をしている学年の保護者が前列で参観できるよう、譲り合ってご参観してくださいまして、本当にありがとうございました。保護者の方が子ども達の模範となって、譲り合う姿を見せていただき、感謝申しあげます。



今後も皆様からいただいたご意見を真摯に受け止め、さらにすばらしい運動会となるように努力を重ねてまいります。引き続き、ご支援いただけますよう、よろしくお願ひ申しあげます。

◇◇ 広島平和学習の感想について ◇◇

9月末の修学旅行「広島平和学習」の6年生の感想を読みましたが、一人一人が平和について深く考えているのが分かりました。感想の一部を紹介させていただきます。今後も学んだことを、未来に向かって発信し続けてほしいと願っています。

【広島平和学習の6年生の感想】

・先日、修学旅行で広島へ平和学習に行ってきました。そこでは、二つのことを学んできました。それを伝えようと思う。まず一つ目は戦争の恐ろしさについてだ。平和記念資料館では核兵器による人々の苦しみを感じる機会となった。焼け焦げた埠、積み重なった死体の山、重傷を負った被爆者たち、燃え広がる火事、どれも地獄のようだった。逃げ場などどこにもない。想像するだけで胸がしめつけられた。次に二つ目は、平和の意味についてだ。宿舎での友だちとの時間は非常に楽しいものとなった。だが、この時間にも終わりがあるのだと思うと胸がいっぱいになった。その時、被爆体験伝承者の方の講話を思い出した。「平和とはあたりまえのことをあたりまえにできることだ。」とおっしゃっていた。もし、日本が平和でなければ、友だちと遊ぶことすらできなかつたのかもしれない。これからはあたりまえのことを大切にして生きようと思った。

・平和記念資料館の展示では、被爆者の苦しみやその時の絶望や、戦争、原爆のおそろしさがよく伝わってきました。講話では、戦争で生き残った人のその後の苦しみを知り、生き残れても、幸せいではないと感じました。袋町小学校では、家族をさがす人の必死さが伝わってきました。でも、黒板に書かれた人々は、見つかっていない人もいました。見つけられない日々が続していくと考

わたし ゼットボウ ひろしま げんばく お もると、私なら絶望でおかしくなりそうです。広島は原爆が落とされたとは思えないほど、きれいになつていて、生き残った人が苦しみに耐えて復興をがんばったと思います。戦争を知らない世代にせんそう おそ つた せんそう あらそ にほん せかい 戦争の恐ろしさを伝え、戦争、争いのない日本、世界にしたいです。

・平和記念資料館では、実際に戦争を体験した人の写真や服、水筒など、その当時のものがありました。服はボロボロになっていて、服がボロボロだったら人間の体はもっと大変なことになっているだろうと思いました。写真を見ただけでも恐ろしいのに、戦争を体験した人やその場にいた人は苦しかったり、もっと恐ろしかったりしたんだと思いました。講話では、戦争は絶対にやってはいけないことで、これからも平和にしていくには、ひとごとのように思わないで、自分たちで平和にしていくことが平和につながると思いました。平和は、勝手になることではないと学びました。

・被爆体験伝承者の講話のときに、「平和とは何ですか」の問い合わせに対して、「あたりまえのことをあたりまえにできること」という答えに感動しました。戦争は、私たちが今あたりまえにできていることをすべて壊し、戦争で今あたりまえにできていることがあたりまえにできなくとも、それが普通になる。だから、あたりまえをあたりまえにできる喜びをあらためて感じました。

・青少年センターでの被爆体験伝承者の講話で、原爆の恐ろしさと一瞬で何万人の人が亡くなってしまう悲しみを学びました。また、平和記念資料館では、実際の写真や焼け焦げた服や時計など様々なものがあり、より強く平和が一番と感じました。そして、袋町小学校では、階段の横に行方不明の人を探すメッセージが書かれている写真があって、家族がそばにいないつらさを知りました。これからは、平和のために何ができるかを考え、困っている人は助けるようにします。

・ぼくは、修学旅行で広島に行ったことで、お父さん、お母さんを亡くした子どもはどう生き、耐えてきたのかを講話でお聞きし、その内容に驚きました。子どもたちは、くつみがきをしてお金をかせいで、危ない仕事をしたりと、大変だったんだなと感じました。でも、子どもたちはそうでもしないと生きていけない、苦しい状況だったのだという、複雑な気持ちになりました。原子爆弾が一つ落とされただけで、何万人の人が亡くなり、苦しむ物を今でも開発している国の偉い人は原子爆弾はどのような被害があるのかを知っているのでしょうか。知っているとして開発しているのであれば、地球を壊そうとしているのではないかと思います。これからは、世界が平和であるために、人々に戦争と原子爆弾の恐ろしさを知ってもらいたいです。

◇◇ 11月17日(月)文部科学省

「よりよい生き方を実践する道徳教育の推進事業」研究発表会 ◇◇

本校は今年度も文部科学省「よりよい生き方を実践する道徳教育の推進事業」大阪市研究校として、「児童が新たな気付きを得るための道徳科授業の工夫」という研究テーマで研究に取り組んでまいりました。研究の途中ですが、子ども達が新たな気付きを得て、学びが深まった姿が見られるようになってきました。その研究の成果を発表する機会として、11月17日(月)には、文部科学省道徳教育推進事業・大阪市研究校としての研究発表会を行います。1年2組と5年2組の公開授業と本校の研究発表を行ったあと、大阪成蹊大学教授の服部敬一先生の指導助言と講演会があります。

公開授業のあるクラスは、5時間目までありますが、授業のないクラスは給食後13:30頃下校となります。保護者の皆様にもご理解をいただきますよう、お願い申しあげます。